

# JODC ニュース

Japan Oceanographic  
Data Center

No. 53

September 1996



- 会議開催・出席報告 p. 1
- IOG刊行物・文書保管センターから p. 10
- データセット紹介 p. 6
- Topics & Information p. 11
- XBTフォーマットについて p. 7
- JODC 刊行物一覧 p. 14
- 海の相談室だより p. 9

日本海洋データセンター  
(海上保安庁水路部)

# 会議開催・出席報告

## 第15回 IODE 会議出席報告

この会議が開かれ出席して来ましたので、以下に概略を報告します。

日時 1996年1月22日から31日  
場所 アテネ市、ザッペイオン国際会議場  
出席者 加盟国代表：38カ国83名、  
国際機関：17機関17名、  
オブザーバ9名、事務局5名、  
合計114名。  
ただし、国と機関には人の重複があり、オブザーバも機関も常時は出席していない場合があります。



ザッペイオン国際会議場

議事概要 多くの議事がありました。概要のみ報告します。

### 1. 会議の目的

ウィルソン議長（カナダ）は次のように強調しました。

1. 国レベル、地域レベル及び地球レベルでの進歩を評価し、
2. 技術的發展を利用するステップを決め、
3. 将来活動の方向を定め、
4. 更なる發展の政策を立てる。

### 2. データフローのモニター

国内海洋調査計画（NOP）の実施に

ついて、日本に対する感謝の言葉が議事録に記載されました。これはIOCに大きく協力しているためです。

MEDIについても議論されましたが、これは日本の地域海洋情報整備事業で行っているものに近いものです。（勧告1関連）



会議参加者

### 3. WDCの活動

ICSUのWDCパネル及びWDC-A（米国）、B（ロシア）、D（中国）から報告がありました。

これらの報告でWDCへのデータ提出のことばかり求められているように感じたので、日本から、WDCの任務にはデータ収集とユーザへのデータ提供の2つがあり、後者にももっと力を入れるべきだと発言しました。

### 4. 各国の活動状況

各国からレポートが提出されました。これらの中に特徴として現れている言葉は、インターネット、WWW、CD-ROMであり、各国で急激にコンピュータ通信が普及し、それが利用されていることが示されていました。

### 5. GTSP

IGOSSとIODEの共同プロジェクトであるGTSPが、IGOSSにおいて永続プロジェクトに勧告されたことを受け

て、IODEも永続プロジェクトに勧告しました。(勧告4) これは、リアルタイム部分をカナダのMEDSが受け持ち、デイレイドモードのCMD(コンテニューアスリマネジドデータベース)部分を米国のNODCが受け持つものです。

## 6. GODAR

プロジェクトリーダーのシドニーレピタスが報告しました。過去3年間に3回ワークショップを開き、多量のデータが収集され、ワールドオーシャンアトラス1994としてCD-ROMにまとめられました。1996年にもCD-ROMが計画されており、1997年に5年間のまとめをし将来計画を立てる国際会議が開かれます。

第14回会議で勧告された海軍データの秘密解除の進行状況についても報告されました。

## 7. 刊行物と情報プロダクト

1995年7月よりIOCのWWWサーバが始められました。これは、IOCの活動状況の情報提供、刊行物等へのアクセス、メンバー国のWWWサーバのガイド等を目的にしています。現在のところ、70%の国でインターネットの完全利用ができ、15%の国で電子メールのみ、15%の国で全く利用不可能となっています。日本からはJODCのWWWとFTPの紹介パンフを作り配布する予定であることを報告しました。(決議2、勧告5関連)

## 8. オーシャンPC

これはキャパシティブルディングの中で取り扱われているPC用の一連のプログラムの開発です。今回議場で二枚のFDを含む刊行物が配布されました。(決議3関連)

## 9. 海洋データ・情報管理研修

過去3年間に10コース以上の研修が行われ、WESTPAC地域では、日本、マレーシア、中国によって行われまし

た。特に、日本に対しては十年以上にわたって毎年WESTPAC加盟国に研修していることに対し、特別な評価が与えられました。IODE研修の標準モジュールについて原案が提出され、会期中の小グループを作って検討しましたが、これは実際的でないとして不採用になり全体会議に提出されませんでした。(筆者はこの小グループに参加し、採択に反対しましたが、原案は観念的すぎ実務的でないものでした。韓国代表も参加していたが同意見でした。原案はヨーロッパ人によるものでした。)



会議中の風景

## 10. シンクタンク ミーティングの結果

IODE顧客社会の変化、コンピュータと通信の革命およびIODE顧客社会の期待の増加に対し、シンクタンクミーティングがこの以前開かれ討論されてきました。この結論は、IODEのデータ・情報サービスの主たる顧客は今なおサイエンスコミュニティであるが、今後数年間にオペレーショナル部門とサービス産業が非常に重要となるであろうということでした。

これに対し、データセンタの技量の向上が中心になるべきであり、それには、より多くのデータタイプの取り扱い、新しいデータ管理の実施、WWW・インターネット・CD-ROMを

含む電子出版能力の利用があるとされました。

このためには、IOC内外の機関とのジョイントプロジェクトとパートナーシップがあるとされ、それには、GOOS支援、キャパシティビルディング、IOC地域体との更なる協力、沿岸データ管理、汚染データ管理、JGOFsがあるということです。

### 1.1. 新議長

新しい議長としてオーストラリア海洋データセンタ所長のベン サールが、副議長としてギリシア海洋データセンタ所長のバロプーロスが選ばれました。

### 所感

冒頭にも述べましたが今回の会議の出席者数は非常に多く、その中でもアフリカからの出席が目立ちました。議事の項目も多く、あるものは余り深く議論される時間がありませんでした。この中で特徴的だったことは多くの項目の中で、インターネット、WWW、CD-ROMが言及されたことです。この3年間のコンピュータ通信の進歩が各国において大いに利用されている状況がはっきり示されていました。国内の新聞、雑誌もこれらについて連日取り上げているように、これは今後、コピー機やファックス、電話などのように極めて日常的な道具になり、IODEの世界でも大いに使われると思います。筆者も会議中JODCとの連絡に電子メールを使いインターネットの便利さを味わいました。他の代表も電子メールを使い、WWWで故国の新聞を読み、また息子の



コリント運河をバス道路から見る。右が本土、左が半島

の作ったホームページを読みました。

今回の議場は、市の中心

部にありホテルから歩いて15分ほどでした。市内は歩いて買い物ができる便利なサイズで、大きな市は不便ですがここはちょうどよいサイズでした。古代の遺跡が多く、日常生活の場のすぐ隣にある興味深い町でした。ただ、自動車の排気ガスの規制は遅れているようでした。

日曜日にはホスト側でエクスカージョンを計画してくれました。行き先は、ペロポネソス半島の北部でした。この半島と本土の間はコリント運河であって、19世紀に開かれたもので大きな商船が曳航されることが出来ます。また、半島北部はミケネ文化の故地であって、シュリーマンの来たところ



ミケネ文化の遺跡の見学

技術の高さは立派なものでした。現代は過疎地のようになっています。

アテネもそうでしたが、長年の雨のため土壌が失われたと思われます。これの回復は不可能と思われます。この反面、半島のホテルの床に使ってある大理石の美しさが印象的でした。

ペロポネソス半島の北部は、一部を除き寂しい印象の過疎的な感じでした。古代には森林が茂っていたらしいが(花粉分析)、今では山はごく小さい樹木しか見られません。日本も森林を大切にしなければならないと感じました。

### 決議と勧告

今回採択された決議は6件、勧告は11件でした。それぞれの名称は以下のとおりです。

#### 決議

1. インド洋のためのRNODCの設立  
(インドのNIOがRNODCになること)

- を承認した。)
2. NODC設立のためのIOCガイドNo.5の改訂
  3. オーシャンPC
  4. IODE地域調整員
  5. IOCEA地域のための国及び地域データ・情報センタの進展
  6. IGOSS/IODEブローシュア

#### 勧告

1. MEDIの進展
2. IGOSS-IODEデータ管理戦略
3. IODEとグローバルサイエンス及びモニタリングプログラム
4. GTSP
5. IOC WWWサーバ
6. リモートセンシング
7. 沿岸域データ管理
8. 黒海地域におけるNODCとNMC間の結びつきの改良
9. ROPME及びPERSGA地域におけるIODEインフラストラクチャの進展
10. MEDAR/MEDATLAS及び地中海データセットの進展及び改良
11. 1996-1999のプログラム及び予算  
(JODC所長)

### 第3回WESTPAC サブコミッション会議

第3回WESTPAC サブコミッションが平成8年2月26日から同年3月1日まで、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。

出席者は、オーストラリア・中国・マレーシア・韓国・北朝鮮・タイ・フランス・ロシア・アメリカ等の加盟国・関係国のほかホーランドIOC議長、クーレンバークIOC事務局長など約80名で、日本からは平啓介東京大学海洋研究所海洋科学国際共同センター長を首

席代表とする22名が参加しました。

会議は、林田文部省学術国際局長等による開会の挨拶を皮切りに地域プロジェクトなどの活動報告や今後の協力について活発な意見交換に終始しました。

また、会期中にWESTPAC科学セミナーが開催され、平啓介氏及び福代康夫氏（東京大学生物資源環境研究センター）などによる講演が行われました。

当該会議における決議事項のうち、特記すべき事項は次のとおりです。

1. NEAR-GOOS（北東アジア地域世界海洋観測システム）が、1996～1997年度のWESTPAC事業として承認され、加盟国などの協力のもと本格的に活動することとなりました。
2. 平啓介IOC分科会調査委員が中国の蘇氏に代わって新しいWESTPAC議長に選出されました。

### 日中亜熱帯循環系共同調査研究

7月22日～7月27日の間、日中亜熱帯循環系共同調査研究における「データ交換細則」作成のため中国天津市の中国海洋データセンターを訪れたので、その概要を報告します。

1995年3月31日に合意された「亜熱帯循環系の調査研究プロジェクトに関する日本国科学技術庁と中華人民共和国国家海洋局との間の実施取決め付属書」において、共同調査で取得された海洋データは、十分に利用するため、双方の海洋データセンターを通して交換することとなりました。このため海洋データ交換に関して具体的な細則を双方の海洋データセンターが協議の上作成することになり、JODCニュースNo.52で掲載したように、1995年12月中国海洋データセンターの馬氏が来日し、日本海洋データセンターにおいて日中双方が国内研究者

との協議により作成した、それぞれの細則（案）について検討及び調整を行いました。

また、最後まで合意に至らなかった部分については、双方持ち帰り再度国内研究者と協議し細則（案）を作成し直すこととなりました。

今回の出張は、前述の日中双方の案について再度調整を図ることが目的でした。中国海洋データセンターにおいては関係者8人と長時間にわたる協議を重ね、全体の構成や細部の表現等の相違については、比較的容易に調整が行われ双方の見解は一致しました。しかしながら、日本側案の交換対象

海洋データに生物データが記載されていないことについては最後まで意見が分かれ、中国側は生物データに関しては交換時期を調査終了後2年を目処とすることを提案しました。結局この案については日本に持ち帰り、検討することになりました。

今回の中国海洋データセンター訪問は7年ぶりであり、懐かしい人達との再会ができ、あたたかい歓迎を受けました。また、計算機システムが刷新されていたのが印象的でした。交換細則の両国案の調整をできるだけ速やかに進めるため、今後とも関係機関の皆様にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(清水海洋情報官)

### その他に開かれた会議

会議名 月日 場所 出席者	第9回WOCE-DPC（世界海洋循環実験データプロダクト委員会）会合 1996年2月6日-9日 フランス国立海洋開発研究所（IFREMER, プレスト） 谷伸（企画課）
会議名 月日 場所 出席者	第5回GTSP（全地球水温・塩分計画）運営委員会会合 1996年4月16日-20日 アメリカ国立海洋データセンター（U.S. NODC, ワシントンDC） 谷伸（企画課）

### これから開かれる会議・研修案内（1996年10月～）

会議・研修名	開催日時	場所
1. 「海洋データ」国際シンポジウム	1996年11月 6日～ 7日	海上保安庁水路部
2. 「亜熱帯循環系の調査研究」 第2回日中共同ワーキンググループ	1996年11月21日～22日	東京都内
3. アジア・モンスーン 第2回日中ワークショップ	1996年12月 3日～ 7日	京都市国際交流会館
4. 第15回WESTPACデータ管理研修	1996年10月14日～25日	海上保安庁水路部

## データセット紹介

### “MAGNETIC ANOMALY MAP OF EAST ASIA 1 : 4,000,000”



このデータセットは、工業技術院地質調査所から提供されたものであり、東アジアの磁気異常図をコンピュータ上に表示し、数値化された形でデータを使用できるように平成8年に出版されたものです。

平成6年に地質調査所とCCOP（東・東南アジア沿岸地球科学計画調整委員会）により出版された「東アジア磁気異常図」の数値化データを基にしています。

石原丈実・岸本清行の両氏がCD-ROM用データの編集およびCD-ROMの作製を担当し、本図は、CCOPの加盟国及び協力国の多くの人々と機関の協力により編集されたものです。その主な国は、中国・インドネシア・日本・韓国・マレーシア・フィリピン・タイ・ベトナム等であり、データ空白域では米国のNGDC・ロシアの太平洋海洋科学研究所及び海上保安庁水路部の磁気データも利用されています。

このCD-ROMにはつぎようなファイルが含まれています。

1. 「東アジア磁気異常図」を作成するのに使用したグリッドデータのファイル。
2. 同図の編集に使用されたデータの測線データファイル。
3. 磁気異常データをコンピュータの画面上に表示するための画像ファイルとそれに必要なソフトウェア。

フィリピンのグリッドデータは、削除されています。

400万分の1東アジア磁気異常図CD-ROM版は、下記の所で購入できます。（¥1,200円）

地質調査所地質情報センター 情報管理普及室

住所 〒305 茨城県つくば市東1-1-3

Tel: 0298-54-3606 Fax: 0298-54-3533 e-mail: fukyu@gsjnet.gsj.go.jp/

### “GEODAS、SET UP Marine Trackline Geophysics VOLUME3, Version 3.2”

このデータセットは、1996年5月に米国国立地球物理データセンター（National Geophysical Data Center）からJODCが受領したものであり、海洋地球物理データ（水深・地磁気・重力）管理システムの改訂版です。

ジオダス：GEODAS（Geophysical Data Management System）はNGDCとJODCとの共同開発により1993年に完成したものです。JODCは、大量の海洋地球物理データを



NGDCが開発したMGD77フォーマットで管理しています。

CD-ROM3枚に、3,000クルーズ以上のデータが圧縮されて入力されており、JODCのMGD77のマスターファイルには、約1,400クルーズのデータが保管されています。

新バージョン3.2のCD-ROMセットには、下記のものが含まれています。

1. ジオダスCD-ROMの旧バージョンに含まれていた全てのデータファイル
2. 1995年にデータベースに追加された169カ所の測量に関する新データファイル
3. ジオダスCD-ROMの旧バージョンを訂正した新バージョン
4. 新インベントリーファイル及び文書ファイル
5. 新データファイル及びインベントリーファイルを使用するためのバージョン3.2ソフトウェア
6. 新ユーザーズガイド

## XBTフォーマットについて

平成7年6月の第47回WMO執行理事会において、BATHY報の一部改正が承認され、表層水温の観測機器に関する資料を加えることになり、同年11月8日から新しい通報式による通報が実施されることになりました。これに伴い、各国データセンターでは、水温データは、BATHYに限らず観測機器名を記載する方向に動いています。同様にJODCでも従来のXBTフォーマットを修正しこれに対応することとしました。

以下に新規XBTフォーマットを示します。フォーマットの変更は、関係するプログラムへの影響が少なくなるよう最小限度にとどめています。

### ・変更箇所

従来フォーマットにあったShip Cruise No.の欄(38~43桁)を、観測機器、記録器、連続データの有無の欄に変更する。

観測機器(Instrument Type)(38~40桁)

記録器(Recorder Type)(41~42桁)

連続データの有無(Continuous Layers)(43桁)

### ・観測機器コード表

コード	機器の種類	係数 a	係数 b
001	Sippican T-4	6.472	-2.16
002	Sippican T-4	6.691	-2.25
011	Sippican T-5	6.828	-1.82
021	Sippican Fast Deep	6.346	-1.82
031	Sippican T-6	6.472	-2.16
032	Sippican T-6	6.691	-2.25
041	Sippican T-7	6.472	-2.16
042	Sippican T-7	6.691	-2.25
051	Sippican Deep Blue	6.472	-2.16
052	Sippican Deep Blue	6.691	-2.25
061	Sippican T-10	6.301	-2.16
071	Sippican T-11	1.779	-0.255
201	TSK T-4	6.472	-2.16
202	TSK T-4	6.691	-2.25
211	TSK T-6	6.472	-2.16
212	TSK T-6	6.691	-2.25
221	TSK T-7	6.472	-2.16
222	TSK T-7	6.691	-2.25

231	TSK T-5	6.828	-1.82
241	TSK T-10	6.301	-2.16
401	Sparton XBT-1	6.301	-2.16
411	Sparton XBT-3	5.861	-0.0904
421	Sparton XBT-4	6.472	-2.16
431	Sparton XBT-5	6.828	-1.82
441	Sparton XBT-5DB	6.828	-1.82
451	Sparton XBT-6	6.472	-2.16
461	Sparton XBT-7	6.472	-2.16
471	Sparton XBT-7DB	6.472	-2.16
481	Sparton XBT-10	6.301	-2.16
491	Sparton XBT-20	6.472	-2.16
501	Sparton XBT-20DB	6.472	-2.16
700	Sippican XCTD standard		
710	Sippican XCTD deep		
720	Sippican AXCTD		
730	Sippican SXCTD		
800	メカニカルBT		
810	各層観測		
820	サーミスタチェーン		
830	CTD		

### ・記録器の種類

コード	記録器
01	Sippican Strip Chart Recorder
02	Sippican MK2A/SSQ-61
03	Sippican MK-9
04	Sippican AN/BHQ-7/MK8
05	Sippican MK-12
10	Sparton SOC BT/SV Processor Model 100
20	Argos XBT-ST
21	CLS-ARGOS/Protecno XBT-ST model 1
22	CLS-ARGOS/Protecno XBT-ST model 2
30	BATHY Systems SA-810
31	Scripps Metrobyte controller
32	Murayama Denki Z-60-16 III
33	Murayama Denki Z-60-16 II
34	Protecno ETSM2
35	Nautilus Marine Service NMS-XBT
40	TSK MK-2A
41	TSK MK-2S
42	TSK MK-30
43	TSK MK30N
99	不明





## 海の相談室だより

### 船の科学館で臨時海の相談室を開設

若い人のデートコースとして今話題の臨海副都心に位置する「船の科学館」で、第12回目の臨時海の相談室を今年も7月20日から7月26日まで開設しました。

今年、7月20日が海の日として最初の祝日となったこともあり、東京海上保安部等との合同で、会場も広い同館5階の「マーメイド」ワンフロアを使用して開催しました。また、臨海副都心への交通機関「ゆりかもめ」開通後始めてと、始めて尽しの状況での開催でした。



海のクイズにチャレンジする親子

展示物は、テーマを「美しい海を守る」とし、次のようなパネル展示や、パソコンによ

るデモンストレーションを行いました。また、美しい海を守るための水質や底質を調査する機器やその作業風景写真、底質のサンプル展示を行いました。

- ・ 海図で見る東京湾の移り変わり
- ・ 東京湾のデータ
- ・ 東京湾の鳥瞰図
- ・ 東京湾情報図
- ・ 電子海図
- ・ 東京湾のヨッティングチャート
- ・ 海のクイズ
- ・ 採水機、採泥機

なお、東京海上保安部では、油の吸着のデモンストレーションのほか、赤潮、青潮や廃船、油汚染など海の汚染状況のパネルを展示し、海を汚さないよう呼びかけました。特に、海洋の油汚染を象徴する直径40センチ位の廃油ボールには沢山の見学者が驚くとともに興味をもったようです。

また、東京湾潜水探検隊&海をつくる会と運河を美しくする会からの東京湾の水中写真も多数展示されました。

今年の会場は一般の見学コースからはなれていたことや天候が不順だったことから入場者は、例年に比べ少なかったですが、説明職員の積極的な対応もあり、充実した見学を行っていました。

なお、パソコンによる海のクイズは、賞品もあることから例年のとおり好評で、子供達の黄色い声が溢れていました。

### 海の相談室にエンブレム

海の相談室のドアを開けると、正面に直径60センチの救命浮環型木製のエンブレムが入室者の目に入ります。

浮環には上下に「海の相談室」「海上保安庁」左右に「水路部」「海を拓く」の達筆な文字があり、環の中に「HL拓洋」の文字を首につけたイルカが配置されています。



このエンブレムは7月5日、測量船「拓洋」の主任航海士・千葉雄三郎さんから海の相談室

へ飾ってほしいと贈られたものです。千葉さんは20年ほど前から木彫りを始めましたが、水路部の測量船勤務となった記念に一般の人が訪れる海の相談室にと、ラワン材を使用し3ヶ月掛かりで仕上げたとのこと。今まで置物などいろいろ作ってききましたが、救命浮環型は、これが3作目で一番大きなものだそうです。

## IOC刊行物・文書保管センターから

新しく受領した文献のリスト (1996年7月15日現在)

### Report of Meetings of Experts and Equivalent Bodies

- No. 103 ..... *Joint IOC-IHO Guiding Committee for the General Bathymetric of the Oceans*  
 No. 104 ..... *IOC Consultative Group on Ocean Mapping*  
 No. 105 ..... *IOC-NOAA Ad hoc Consultation on Marine Biodiversity*  
 No. 106 ..... *Sixth Joint IOC-WMO Meeting for Implementation of IGOSS XBT Ship-of-Opportunity Programmes*  
 No. 107 ..... *Health of the Oceans (HOTO) Panel of the Joint Scientific and Technical Committee for GOOS (J-GOOS)*  
 No. 108 ..... *IODE Group of Experts on Marine Information Management*

### Reports of Governing and Major Subsidiary Bodies

- No. 62 ..... *International Co-ordination Group for the Tsunami Warning System in the Pacific*  
 No. 63 ..... *IOC-WMO-UNEP Committee for the Global Ocean Observing System (I-GOOS-II)*  
 No. 64 ..... *IOC-FAO Intergovernmental Panel on Harmful Algal Blooms*

### Workshop Report

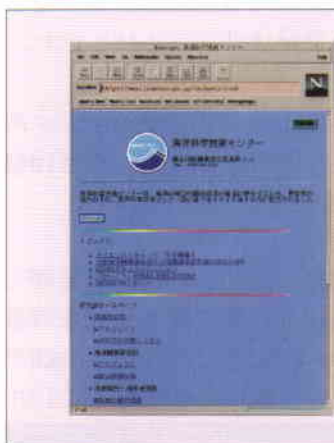
- No. 115 ..... *IOC/GLOSS-IAPSO Workshop on Sea Level Variability and Southern Ocean Dynamics*  
 No. 116 ..... *IOC/WESTPAC International Scientific Symposium on Sustainability of Marine Environment : Review of the WESTPAC Program , with Particular Reference to ICAM*  
 No. 118 ..... *IOC-UNEP-IMO-NOAA-SEA.GRANT Fourth Caribbean Marine Debris Workshop*  
 No. 119 ..... *IOC Workshop on Ocean Colour Data Requirements and Utilization*

### Training Course Reports

- No. 33 ..... *IOC-IOMAC Advanced Training Course on Marine Geology and Geophysics off Pakistan*  
 No. 34 ..... *Training Course on Management of Marine Data and Information for Mediterranean Region*  
 No. 36 ..... *MAST-IOC Advanced Phytoplankton Course on Taxonomy and Systematics*  
 No. 37 ..... *IOC-JODC Training Course on Oceanographic Data Management*  
 No. 38 ..... *IOC-IODE Training Course on Marine Geological and Geophysical Data Management*

### Information etc.

- INF-994 ..... *ASFA : The First Twenty Years. An Outline History of Aquatic Sciences and Fisheries Abstracts , 1971-1990*  
 CD-ROM ..... *GLOSS Station Handbook*



### 海洋関係機関のホームページ その4

- 機関名 海洋科学技術センター  
 アドレス <http://www.jamstec.go.jp/>  
 メニュー トピックス  
 研究部ホームページ  
 深海研究部  
 海洋観測研究部  
 海域開発・利用研究部  
 船舶及び潜水調査船  
 研究支援体制 等

## Topics & Information

### ■ 海洋資料交換国内連絡会 第25回会議開催



海洋資料交換国内連絡会は、IOCの国際海洋データ・情報

交換システム (IODE) にかかる諸問題について、報告・検討等を行なうため毎年1回開催しているもので、第25回会議を平成8年3月15日 (金) に水路部で開催しました。その会議概要について報告します。

[出席機関]

海上自衛隊海洋業務群対潜資料隊  
科学技術庁研究開発局航空宇宙開発課  
環境庁水質保全局海洋汚染・廃棄物対策室  
文部省学術国際局国際学術課  
北海道大学水産学部  
東京大学海洋研究所  
東海大学海洋学部  
水産庁研究部研究課  
水産庁中央水産研究所  
工業技術院地質調査所  
運輸省港湾局技術課  
気象庁海洋気象部海洋課  
建設省国土地理院地理調査部  
宇宙開発事業団地球観測センター  
海洋科学技術センター  
(社) 漁業情報サービスセンター  
(社) 日本水産資源保護協会  
海上保安庁水路部企画課  
　　〃 海洋調査課  
　　〃 沿岸調査課  
　　〃 航法測地課  
(事務局)  
日本海洋データセンター (JODC)

### 1. JODCからの報告

- (1) 平成7年度におけるJODCの活動概要及び平成8年度活動予定
- (2) 国際海洋データ・情報交換委員会 (IOC/C-IODE) 第15回総会報告
- (3) オンラインデータ・情報交換システムについて  
JODCが開発したオンライン情報提供システム「J-DOSS」(JODC Data Online Service System)を中心に、将来におけるJODCのオンラインデータ・情報交換システムについて報告

### 2. 参加機関からの報告

- (1) 第3回WESTPAC総会について  
[文部省学術国際局国際学術課]
- (2) IAMS LIC (国際陸水海洋科学情報協会) 第21回総会について  
[海洋科学技術センター]
- (3) 開発中のインターネットを利用した衛星データの検索・提供サービスについて  
[宇宙開発事業団地球観測センター]
- (4) ASFAに関する研究論文のアブストラクトを収録したCD-ROM (ASFAデータベース) についての紹介  
[日本水産資源保護協会]

### 3. 会議での主な討議

議題に沿って適時質疑があり、今後のデータ利用等に関して有意義な討議がなされました。主な質疑は以下のとおりです。

#### 質疑 1

J-DOSSパンフレット内にあるデータのダウンロードの上限について、なぜ10M byteなのですか？

(事務局)

今まではTISN (64kbps回線) に接続していたため、10分程度で取得可能な容量として10Mbyte に設定していた。平成8年1月に1.5Mbpsの回線に変更したので上限

## Topics & Information

を拡大することを検討中です。

### 質疑 2

10Mbyte以上のデータを取得する場合はどのようにすればよいでしょうか？

(事務局)

ダウンロード上限拡大の設定が終了するまで、当面オフラインで提供します。

### 質疑 3

FTPを使用してデータをJODCに送っているケースがありますか？

(事務局)

過去にFTPを使用して受領したことがあります。FTPでデータを送付する際、FTPサーバにデータがある旨の連絡をいただければこちらから、アクセス致します。

### 質疑 4

ADCPデータの品質管理を行う上で、データ処理方式として標準的なものはありますか？

(事務局)

現在のところ、標準的な方式はありません。



見学者と

このように5月、6月に集中したこと、各機関とも概ね質問の内容がオンライン

情報提供システムに関する事項に偏っていたことから判断して、JODCが7年度末に整備したインターネットを活用したオンライン情報提供システム (J-DOSS) を主目的とした見学のように思われました。

また、各機関とも何かを掴もうとする真剣で熱心な見学状況は共通するところでした。

このように外国からの見学が多いことは、日本海洋データセンターが、世界的傾向にある情報化社会の真っ只中に位置し、近年の著しい業務環境の変化を把握・予測し、かつ関係機関各位のご協力を賜りながら緩緩着実に成長してきたことと理解できることで真に喜ばしい傾向であると考えられます。

## ■ JODC 来訪者紹介

従来からJODCへの見学者は、比較的多い方と思われていますが、特に5～6月の間に外国の関係機関からの見学が頻繁にありました。

その主な機関等は、次のとおりです。

①5月10日：1名

カナダ海洋漁業局太平洋生物研究所

②5月13日：4名

韓国建設交通部水路局ほか

③6月25日：2名

中国国家海洋局

海洋環境予報センター

④6月26日：6名

中国国家海洋局

人事労働教育司副司長ほか

## ■ JOIDES からのお知らせ

平成2年度よりJODCが運用をしているパソコン通信を利用したJODCオンライン海洋情報・データ交換サービス(JOIDES; JODC Online Information & Data Exchange Service)は、近年のインターネットの普及にともない、その掲示板の内容を徐々にインターネット上のJODCのホームページへ移行しつつあります。

すでに、国内海洋調査計画・実施状況、IOC・文書保管センター、海洋略語辞典等の掲示板は移行を終えていますので、ご利用になる方はJODCのホームページにアクセスして下さい。

JODC

## Topics & Information

### ■ GOIN(Global Observation Information Network Initiative)

#### ワークショップ参加



6月4日・5日の両日、NTTデータ通信豊洲センタービルにおいて、地球観測情報

の日米間のネットワークによる流通及び利用の促進を図るため、日米共同技術ワークショップが開催されました。第1日は地球観測情報ネットワークイニシアチブに関する基調講演を主とした全体セッション、翌日は大気・海洋、陸域、地殻、太陽・地球間環境の4グループに分かれ、それぞれの研究機関の観測情報を紹介するサブセッションの構成です。

JODCでもWWWサーバーによる海洋データ提供システムの紹介を行いました。今回は新たに参加した5機関を加え日本側20機

関、米側10機関が参加し、そのほとんどがWWWサーバを構築しており、昨年と比べてこの分野でのインターネットの急進ぶりが伺えました。

### ■ 図書館情報大学の夏季実習



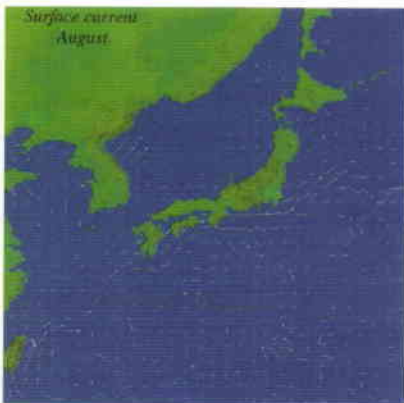
実習生達

7月3日から21日まで図書館情報大学の学生4名がJODCにおいて業務実習を行いました。

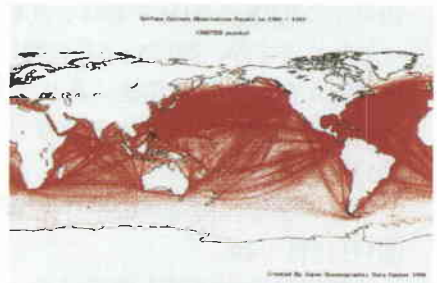
今回の実習課題は「J-DOSS」(JODC Data Online Service System)パンフレットの作成で実習期間中、各学生ともとても意欲的に課題に取り組んでいました。JODCではこの実習で作成されたパンフレットを参考に、今年度中に正式なパンフレットを作成し、皆さんに配付する予定です。

### ■ JODC CD-ROM (海流データ)

JODCデータセットシリーズNo.2として、今回海流データセットを作成し国内外の関係機関に配布しました。このデータセットはJODCが国内外から収集した1900年から1993年までのGEK、ADCP、



月別平均海流図 (8月の例)



測点分布図 (1990-1993)

船舶偏位(Ship Drift)で観測された全世界の海流データ(3,489,497測点)がASCIIテキスト形式で格納されています。また5年毎の測点図および月別平均海流図を画面表示するソフトウェアも格納されています。詳しくはJODCまでお問い合わせ下さい。

# J O D C 刊 行 物 一 覧

## 定期刊行物

誌 名	創刊年月	刊行号数
JODCニュース	1971年3月	No.1～No.52 (半年刊)
国内海洋調査一覧	1972年12月	No.1～No.26 (年刊)
RNODC Newsletter for WESTPAC	1982年3月	No.1～No.15 (年刊)
海洋調査報告一覧 (国内海洋調査機関の情報)	1984年3月	1975年版～1995年版
Data Report of KER (Phase II)	1988年3月	No.1～No.8 (年刊)
日中黒潮共同調査研究海洋環境図	1988年3月	No.1～No.8 (年刊)
RNODC ACTIVITY REPORT	1990年3月	No.1～No.7 (年刊)

## 既刊刊行物

誌 名	発行年月	誌 名	発行年月
海洋環境図 (外洋編－北西太平洋)	1975年3月	日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国外編)	1986年3月
国内海洋資料交換便覧 (第4版)	1978年12月	沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海東部)	1986年3月
海洋環境図 (外洋編－北西太平洋II)	1978年3月	沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海西部)	1986年3月
海洋環境図 (海流編)	1979年3月	日本近海波浪統計図表	1986年3月
Data Report of KER (No.1～No.9)	1979年9月	沿岸海のアトラス (瀬戸内海)	1986年3月
Oceanographic Atlas of KER (No.1～No.9)	1980年3月	日本近海海況図	1975年版 ～1991年版
国内海洋調査船一覧	1981年3月	各層観測データカタログ	1989年3月
Guide to CSK Data (Apr. 1965～Dec. 1977)	1981年3月	海洋地球物理データカタログ (改訂版)	1990年3月
WESTPAC Data Management Guide	1982年3月	水深統合データカタログ	1990年3月
海洋地質・地球物理データカタログ	1983年3月	日本近海海流統計図 (改訂版)	1991年3月
日本近海海流統計図	1983年3月	JODC要覧	1991年3月
水深データカタログ	1983年3月	CTDデータ校正の手引き	1993年3月
実用塩分と海水状態方程式	1983年3月	日本海洋データセンター利用の手引き	1994年3月
WESTPAC データ管理ガイド	1983年8月	国際海洋データ・情報交換マニュアル	1994年9月
潮汐調和定数カタログ	1984年1月	WOCEデータハンドブック	1995年3月
海底地形図 (北西太平洋)	1984年3月	JODC要覧 (改訂版)	1995年3月
沿岸海域海洋データカタログ (東京湾)	1984年3月	IOC刊行物・文書保管センター 文献目録	1995年6月
実用塩分と国際海水状態方程式	1984年6月		
波浪データカタログ (測器観測)	1984年9月		
沿岸海域海洋データカタログ (伊勢湾・三河湾)	1985年3月		
日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国内編)	1985年3月		
潮流データカタログ	1985年3月		
沿岸海域海洋データカタログ (大阪湾)	1985年3月		
海洋情報便覧	1985年3月		
GF-3マニュアル (国際海洋データ交換用IOC汎用フォーマット)	1985年3月		
海流観測情報	1985年10月		

これらの刊行物は「海の相談室」で閲覧することができます。  
また、余部のあるものについては提供できるものもありますので、「海の相談室」までお尋ね下さい。

# JODC

## 表紙写真

水産庁 漁業取締船「東光丸」

平成8年5月、住友重機工業（株）浦賀艦船工場で竣工。総トン数2,450トン、全長86.9メートル、航海速力約18ノット。

遠洋海域での国際漁業に従事する漁船の指導取締にあたる。主な活動海域が特に荒天の多い高緯度海域であるために優れた耐航性、復原性及び凌波性を有し、50日以上の連続航海及び約14000海里以上の航続能力を持つ。

また、超高感度監視カメラシステムの搭載や機関室の無人化、居住環境の向上などがなされている。

「JODCニュース No.53」

—1996年9月発行—

日本海洋データセンター

(JODC)

〒104 東京都中央区築地5-3-1  
海上保安庁水路部

Tel : (03) 3541-4295 (JODC)  
(03) 3541-4296 (海の相談室)

Fax : (03) 3545-2885

E-mail : mail@jodc.jhd.go.jp

WWW : http://www.jodc.jhd.go.jp